

学校だより



第116号 (31.4.8)

平成31年度4月号

なつのがくも

練馬区立光が丘夏の雲小学校



本校ホームページ
携帯・スマホ用サイト
でもご覧ください。

「春の宵 いさぎよきかな 花吹雪」

校長 牧野光洋

「平成」から「令和」に変わる大きな節目を迎え、新たな年度が始まりました。街並みは春本番、桜の舞う季節となりました。一陣の風に吹かれ、一斉に放たれる無数の花びら。見事に咲き誇りながらも、一斉に舞い落ちる様は、はかなさの象徴でもあります。散る様を花吹雪と呼ぶのは、実は桜の花だけだそうです。花の壮大さと、散り際の潔さを日本人は平安時代の昔からこの花を愛し続けてきました。



ソメイヨシノという桜の品種があります。日本に植えられている桜の八割がこのソメイヨシノですが、実はこのソメイヨシノ、自分では増えることのできない品種だそうです。人間が作り出したもので、原木から挿し木で増やし続けたもの。つまりほとんどが、同じ遺伝子をもつクローン、コピーなのです。ですから同じ公園内で数十本が一斉に咲き、同時に散っていきます。自分自身では増えることが出来ないため、誰かが挿し木をしなければ寿命としては百年ほどで絶えてしまうそうです。きれいな桜を後生に残したいという思いが一斉に咲き、一斉に散っていく桜の光景を生み出しました。私たちが当たり前のように見ている花吹雪は、実は先代たちの思いが繋いだ貴重な光景とも言えます。新しい元号も定まりました。美しい光景をいつまでも続けるためにも、私たちの心も清らかでなければなりません。新しい時代を生きる子供たちの心を一人一人の可能性を引き出し夢を実現できるように全力で育てる覚悟です。日本人は桜の散り際に、「心の美」を見てきました。礼節をもって真剣勝負で挑むところに潔さという心の美があるようです。この季節、桜吹雪の中を歩くこともあるでしょう。その時は、目の前を散って行く無数の花びらに眼をこらして、桜の潔さを感じてみてください。いつもより一段味わいの深い桜が楽しめるかも知れません。

素敵な新入生 84 名が入学しました。年度の初めを飾る学校だより 4 月号、本校に学ぶすべての児童が、前向きに努力して活気に溢れ、元気いっぱいになり、光が丘夏の雲小学校を誇りに感じ、健やかに生活することを思い「いさぎよきかな 花吹雪」を掲げ私たちの生き方もこの



ように清々しくという願いを込めました。創立 10 年目を迎えた本校は、教職員がそれぞれの創造力を最大限に活かし、児童一人一人の個性を活かす指導を実践します。児童の心を理解し、その良さや個性・特性を見いだして伸ばす努力をいたします。昨年度同様、美しい言葉、元気な挨拶を基本として「礼節」が伝わる学校づくりに努め、互いの言葉遣いに注意し、教職員と児童、児童と児童間で、心の交流に努め、豊かな心を

育むことを実践して参りたいと思います。心が伝わることで、人を思いやり支え合う優しい心の持ち主となること。これが楽しい学校生活につながっていくと思われま。本校を魅力ある誇れる学校作りに邁進して参ります。保護者の皆様、地域の皆様の応援、ご助力を賜りまして教職員一同、心を合わせて子供たちへの指導に取り組んでいきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。